

新しいHACCP制度化への対応

(10)

NPO法人日本食品安全検証機構(JVO)

理事長代行 遠藤 洋一
理事 赤池 洋

CCP設定の手順

GPセンターや食鳥処理場では加熱工程がな...
のありのままの実態を尊重し、無理のない持続可能なCCPを設定することが望ましいとされている。

塩素殺菌(濃度)をCCP扱いしているところも...
HACCPの要件は、一般衛生管理プロシージャ(手順3)、原則4(原材料)に

衛生管理計画書(HACCPプラン)の策定(段階3の2)

度、吟味し、検討見直し...
この流れを忘れた対応として一般的に、CCP判定作業の道具

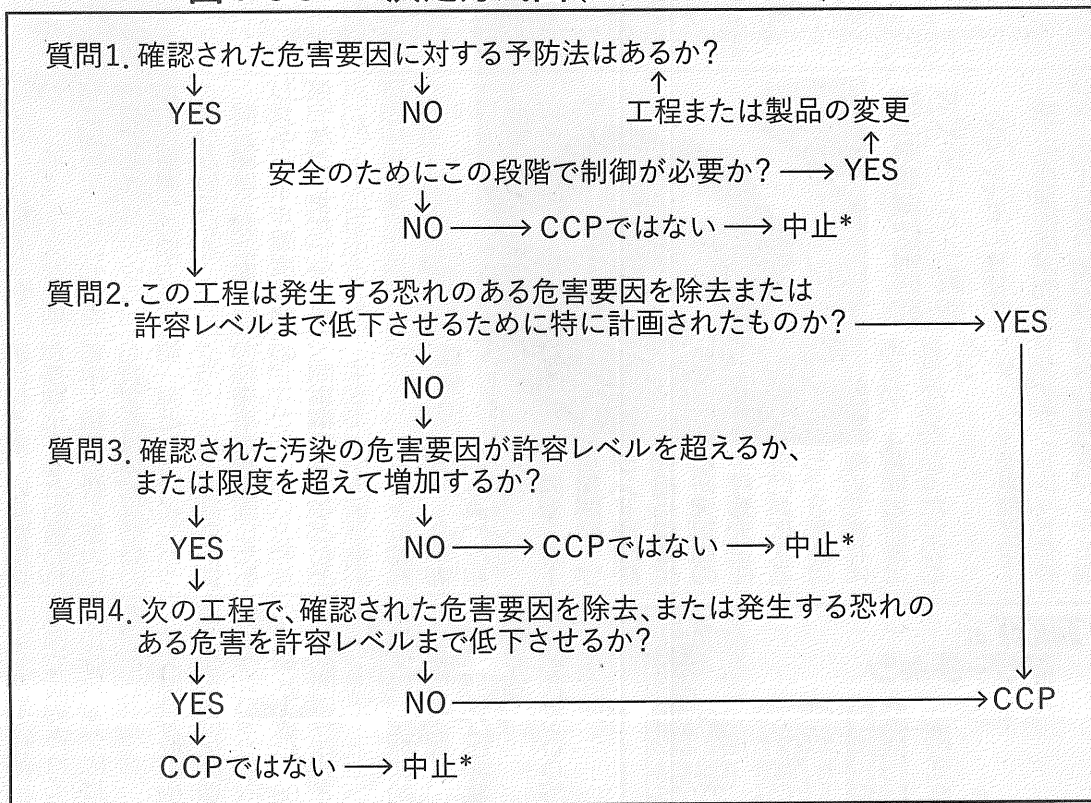
HACCP成功への道

ここで大切なのは、CCPの決定のみに執着し...
段階では、一般的衛生管理(工程、措置)を求め

た。

その結果、「原材料の受け入れ工程管理」の重要性が浮上した。なぜ、受け入れ工程がCCPになるのか。現行のGPセンターや食鳥処理場の工程には、受け入れ素畜(原材料)に由来する食中毒菌や残留農薬

図4 CCPの決定方式図(decision tree)の例



*記載された工程において次の確認された危害に進める

的危険(Chemical hazard)である。生物学的危険に属するサルモネラやカンピロバクターなども受け入れ工程の危害要因として重要であるが、その後の調理工程で加熱工程がない訳ではない。製品出荷時に警告表示も不可能ではない。同様に物理的危険に属する注射針などもその後の金属探知機により危害除去ができる。

一方、化学的危険に属する薬剤残留などは、その性質から受け入れ工程で完全排除しなければ、その後の工程に除去または許容レベルまで低下させる工程、措置、場所は無い。いったん、GPセンターや食鳥処理場に化学的危険因子、要因を持ち込みは取り返しのつかない最悪の事態を招くことになる。従って、化学的危険は最重要CCPとして位置づけられる。(注8) NACMCF: Hazard Analysis and Critical Control Point Principles and Application Guidelines(1997) (177)

ば、後の工程で危害を食MCF)は、「HACCPの原則と適用のガイドライン」(注8)の中で、物理的危険(Physical hazard)を示している。三大危害として化学的危険(Chemical hazard)は、農業や家畜の治療・予防薬として用いる化学物質(注8) NACMCF: Hazard Analysis and Critical Control Point Principles and Application Guidelines(1997) (177)